

臨床研究に関する情報公開

<人を対象とする医学系研究に関する倫理指針>に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書および関連資料を閲覧することができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。その場合でも、患者さんに不利益が生じることはありません。

<p><研究課題名></p> <p>非静脈瘤性消化管出血に対する内視鏡検査・治療の有用性と予後に関する探索的臨床研究</p>
<p><研究機関・研究責任者名></p> <p>日本大学医学部附属板橋病院 消化器肝臓内科 (研究責任者) 岩本 真帆</p>
<p><研究期間></p> <p>承認日 ~ 西暦 2024 年 3 月 31 日</p>
<p><研究の目的と意義></p> <p>消化管出血は、消化器診療における緊急内視鏡検査で最も頻度の高い疾患です。重篤な場合はショック状態を呈し、一刻を争う緊急治療が必要となります。地域の3次救急を担う当院では、救急救命センターに搬送された初診の患者さんに対し全身管理下に、止血を行うことも多く、確実に安全な内視鏡手技が求められます。</p> <p>しかし、消化管出血の原因は、時代とともに変化しており、ヘリコバクターピロリ感染による胃・十二指腸潰瘍が主であった以前と比べ、多種多様化した薬剤性の粘膜障害や、感染症・免疫関連の消化管病変が多く認められるようになってきました。また、現在の高齢化社会が抱える様々な問題も、予後に影響する重要な因子と考えられます。</p> <p>当院で施行した非静脈瘤性の消化管出血に対する内視鏡的止血処置のデータを後方視的に集積し、背景因子、止血処置時の診断成績、治療成績、偶発症、予後規定因子を検討することで、時代や地域に見合った、安全で適切な治療の継続につなげたいと考えます。</p>
<p><利用する試料・情報の項目>処置</p> <p>①研究対象者基本情報：年齢・性別・身長・体重・嗜好（飲酒・喫煙習慣）・現病歴・既往歴・内服内容、受診方法、受診までに要した時間、受診時のバイタルサイン</p> <p>②血液検査所見</p> <p>③CT検査、内視鏡検査、血管造影検査</p>
<p><対象となる患者さん></p> <p>2014年1月31日から2024年3月31日までに、当院にて静脈瘤性出血以外の消化管出血の診断・治療目的で内視鏡治療</p> <p>関連手技受けられた16歳以上の患者さん</p>
<p><研究の方法></p> <p>治療時の年齢・性別・身長・体重・嗜好（飲酒・喫煙習慣）・現病歴・既往歴・血液検査所見・画像所見・治療法・背景疾患を評価する。診療録からその後の経過を調べ、検査処置成績・偶発症有無・予後を同定し、他項目との関連について解析を行います。</p>

<お問い合わせ窓口>

日本大学医学部附属板橋病院（東京都板橋区大谷口上町 30-1）

消化器肝臓内科

氏名：岩本 真帆

電話：03-3972-8111

内線：(医局) 2 4 2 4

(PHS) 8 0 8 5